

土木工学科創立二十周年記念事業、並びに 第4回同窓会総会開催についてのお知らせ

昭和41年4月、秋田大学鉱山学部土木工学科が創立されて、今年で二十周年を迎えました。この間多くの卒業生を世に送り出し、現在国の内外で御活躍中であります。このたび土木工学科並びに同窓会では、二十周年を記念いたしまして、下記のような記念事業を行なうことになりました。つきましては多数の同窓生の御参加をお願い申し上げます。なお記念事業に先立ちまして、第4回同窓会総会を開催いたしますので御出席下さいますようお願い申し上げます。

記

(1) 土木工学科創立二十周年記念事業

日時：昭和60年11月2日(土)

場所：秋田キャッスルホテル

1) 第4回同窓会総会 14:00 P.M.～

2) 記念式典 14:30 P.M.～

3) 記念講演会 15:00 P.M.～

講師 建設省東北地方建設局長 田中 幸彦 氏

澤井 廣之 氏

4) 記念祝賀会 17:00PM～

会費：11,000円 (会場にて御納金下さい。)

※ なお、総会・記念行事の御欠は、同封したハガキにて10月10日迄お知らせ下さい

(連絡先 秋大土木工学科 長谷部
TEL 0188 (33) - 5261 (内 369))

(2) 二十周年記念誌の発行

土木工学科二十年の歩みを記念誌にまとめて刊行する予定で『二十周年記念誌刊行会』が発会し、現在12月の刊行にむけて準備を進めております。その中に各卒業期別のコーナーがもうけられました。皆様方の近況、仕事の事、学生時代の思い出、なつかしい人、なんでもけっこうですので是非御投稿下さい。なお原稿の取りまとめは同窓会が行っておりますので同封のハガキ又は別紙(写真も可)にて11月末まで同窓会の方へお送り下さい。なおページ数に限りがありますので、原稿多数の場合は、調整することがありますので御了承下さい。

(3) 同窓会名簿の発行

現在、同窓会名簿の再発行にむけて改訂作業を進めておりますので、住所の変更になっている方は、すみやかに同窓会事務局へお知らせ下さい。

創立二十周年によせて

鈴木 茂

同窓会員並びに諸先生に於かれましては、益々御健勝のことと御慶び申し上げます。此の度は土木工学科の創立二十周年にあたり、寄稿の御依頼を頂き有難く思っております。ここに秋大時代の回想、卒業後の職歴、そして近況等の御報告を申し上げ、御祝いの言葉に替えさせて頂きたいと存じます。

＜ 鉱山土木科時代 ＞

土木工学科の前身であります鉱山土木科へ入学致しましたのは、17年前の昭和43年春、当時はまだ旧秋田鉱専時代の本館木造建屋が残っている頃で、土木科の学生は一期生から三期生までの総勢百名程で四年生はまだいない新設間もない学科でした。入学当時は従いまして現在のように諸設備も整っていない訳で、実験室も広々としており、室内で卓球が出来るほどでした。卒業後、時折立ち寄る機会がありましたが、各種の設備も増えており、諸先生の御尽力による所が多いと思われました。当時の先生方は、若桑、宮川、色部、中潟、清水、薄木、石井先生共に小生の知る限りでは、国、公立の研究所から来られた方が多く、大学で教鞭をとるのは初めての先生もおられたと記憶しています。また当然ながら、卒業生も大学院生もいなかったことから先生と学生の間はごく自然に近いものでした。

当時、小生は課外活動として海外鉱業研究会に所属しており、海外の土木技術を初めとして英語や他の外国語、工業、経済、社会、風俗、習慣、地理等について勉強しておりました。同会の会員誌に載せるために、エジプトのアスワンハイダムの計画、設計、施工について調査していた頃、ロックフィルダムの巨石の施工法がいまひとつ分からなかったため、故宮川先生の御部屋をお訪ねしたところ、先生は御帰宅なされていましたが、原稿の締め切りが間近であったので御電話をさし上げて御自宅へお訪ねしたことがありました。その後、この話は経緯が語られずに、宮川先生宅で御馳走になって来た最初の学生の話として一部の学生の間で語られるようになりました。その当時、宮川先生は学生のレポート等に詳細なコメントを付して返却されておりましたがその事から、小生を初めとする一部の学生にとっては却って敷居の高い印象を受けていました。以後学生の間での先生への評価がずいぶん変わったのではないかと考えています。卒業後7年を過ぎた頃、苫小牧の地上タンク群の計画に従事した際に、ピート層の圧密特性がテルツァギーに代表される既往の各種資料では説明がつかず、該当資料の収集をしたことがありましたが、宮川先生の公式と資料が説得力のあるもので、また諸外国の文献にも引用されていることが分かり、当時をなつかしく思ったものです。

＜ 卒業後の十年 ＞

昭和48年春に鹿島建設㈱へ入社し、主に設計部門でPC橋梁、LNG・原油用地中タンク、海洋構造物、原子力土木関連の構造設計に従事致しました。入社後にオイルショックのあおりを受けてエネルギー備蓄用構造物の設計業務が急増し、計画、基本設計、実施設計共に急を要するものが多く、当時は連日の残業生活でした。今にして思いますに、各種の設計技術面で経験を積むことが出来て実務についての自信が湧き、また見方を変えますと、実物大モデルの設計になる訳で



すから学究的な面でも実力がついた頃だったと思っています。

すでに6年前になりますが、秋田国家備蓄計画の折は、男鹿半島の船川港付近の地図を元に最新技術で貯油可能な限りの基地計画をするというものでした。日本鉱業㈱の水島での原油地中タンクの設計実績を生かして、機能とコストを考慮した最適な全体レイアウトの設定作業を行なったことがありました。その後、当プロジェクトは設計・施工共に順調に進み現在も完成をめざして建設が進んでいる訳です。

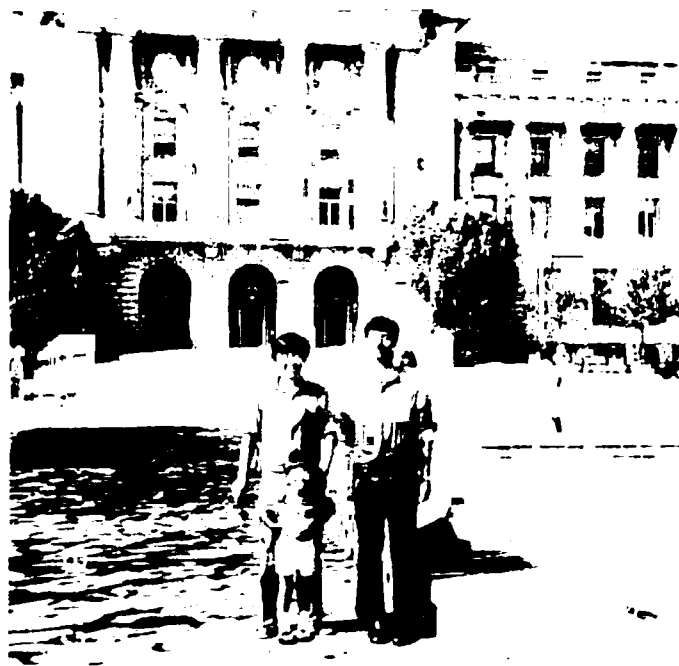
< 米国での近況 >

2年前の12月になりますが、サンフランシスコ（SF）郊外にありますカルフォルニア大学バークレー校へ2年間の留学を命ぜられ渡米しまして、すでに1年半が過ぎました。同校では、工学部大学院土木工学科で建設技術並びに経営講座に於いて、建設業のマネジメントを中心に勉強しております。大変実践的で興味深い学問で、実業に測した科目が多く、ビジネスの基本・原則を学ぶには申し分のない毎日を送っております。此の度の機会を節目として、これからは施工部門や営業部門へも参画したいと考えております。

ここに添付しました写真は、加賀谷先生が昨年カナダでの学会の折にSFへ御立ち寄りの際のスナップです。なお写真の背景はSFの市役所で、この建物は最近封切りになったロジャー・ムーア主演の007映画「ア・グッド・トロー・ア・キル」に使われたもので、ゴールデンゲートブリッジやケーブルカーと並びSFの観光地になっています。

最後になりましたが、同窓会員諸氏の益々の御研鑽と母校の御発展を御祈り申し上げます。

（4期 鹿島建設㈱勤務 現米国在）



サンフランシスコのシティーホールを背景に
筆者と息子と加賀谷先生（右端）

私からのお願い

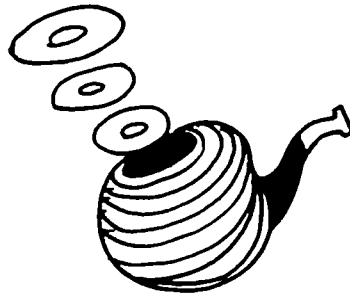
及川 洋

土質力学の勉強を自分の主たる仕事としてもう10年にもなるが、いまだかつて現場のニーズに満身に答えられた例はないような気がする。斜面の安定や擁壁の安定、超軟弱地盤の圧密沈下の問題や破壊に対する安定など、持ち込まれる問題は多種多様である。もちろん、これらの問題は教科書に一応解説されている。しかし、10年程度の浅学で、かつ現場の経験もない小生が答えられるほど現場の問題は簡単ではない。何年勉強すればよいのか、どれほど深く勉強すれば答えられるのか、結局は一生答えられないのではないかと時々考え込むことがある。

小生の宿舎の近くに、子供がかかりつけの小児科医院がある。医者顔は見たことがないが、若い女医さんだという。しかし、その処置は適確かつ迅速である。先日も朝方、子供が急に腹痛を訴えた。いつもの食あたりか食中毒だろうと心配もしなかったが、昼すぎ、突然中通病院から大学に電話があり、子供が盲腸らしいので手術をしたいという連絡が入った。らしいという言葉に多少不安を感じたが、手術をこぼむ理由はない。その日のうちに切り取った盲腸を見せてもらったが、赤く小さくはれ上がった部分のそばに、黒ずんだ小さな穴があった。これは以前に痛んだ部分だという。女医さんは以前の腹痛を盲腸だと判断できなかったことになるが、今回の腹痛の原因をみごとに見ぬいたわけである。盲腸などはよく耳にする言葉であるが、実際には腹を切ってみないとわからないものらしい。特に今回のように小さくはれ上がった程度のもはその判断が難しいという。血液検査・レントゲン撮影のために中通病院にリレーされ、その日のうちに手術という連携プレーもさることながら、女医さんの直感と迅速な処置には感嘆した。

もちろん、小生は医者ではない。しかし、現場からのニーズは一種の患者である。中には研究中の難病患者もいるが、多くの場合は迅速な処置を希望している患者のような気がする。しかし小生はいまだかつて適切な処置を施したことがない。女医さんにあこがれるわけではないが、一度でいいから、迅速かつ適切な処置を試してみたい。そのためには多くの患者（現場）を見ておくことが必要なことは言うまでもない。現場を持たない小生のような大学人がどれほどの名医になれるかは保障のない限りではないが、現場を持つ皆様の御協力を得て努力したい所存である。その節は宜しく御便宜の程お願い申し上げます。

(3 期 秋大土木工学科講師 工学博士)



事務局だより

昭和60年3月9日理事会が開かれ昭和59年度収支決算が次のように承認された。

＜収入＞	会費	298,000円
	利子	21,675円
	繰越金	653,049円
	(定期400,000円含む)	
		972,724円
＜支出＞	同窓会だより	81,980円
	(郵送料含む)	
	慶弔費	21,300円
	通信費	4,200円
	理事会足代	31,800円
	事務費	19,450円
	遺稿集発行寄付	100,000円
	交流会費	61,150円
	雑費	2,475円
	残金	640,369円

昭和60年度予算案を次のように決定した。

土木工学科創立20周年記念事業に対して次のように割り当て、不足分を今年度会費より補うこととした。

記念式典	150,000円
記念誌	250,000円
名簿	250,000円
退官教官の招待 保留	
事務費	50,000円
	700,000円

土木工学科創立20周年記念事業の計画推進にあたり、同窓会代表：小林会長、佐藤副会長、加藤修平氏 土木工学科：清水、薄木、石井各教官の間で話し合いを行い計画を進めることとなった。

第6回交流会

昭和60年2月23日(土)恒例の土木工学科同窓会の第6回交流会が秋田大学生協で4年生約30名が出席して開催された。なごやかな懇談の後に散開した。毎年同時期に予定されております。特に連絡はいたしません。が会員の皆様の出席をお願いいたします。

消 息

●道路工学講座 及川洋講師

工学博士号取得!!

昭和59年9月、『泥炭質土のせん断強さの評価方法とその応用に関する研究』にて、九州大学より博士号を受与されました。おめでとうございます。

●淡路孝次君(5期)会社設立!!

昭和60年6月、淡路君が『㈱クリエイティブ・ライフ』という会社を設立いたしました。業務内容は、建築設計(一級建築士)・土木設計・測量です。おめでとうございます。御発展をお祈り申し上げます。

㈱クリエイティブ・ライフ

住所：〒010 秋田市外旭川字三後田266-1

TEL 0188(68)5352

●薄田正徳君(9期)事務所設立

昭和60年6月、薄田君が『ススキタ建築設計土地家屋調査士事務所』を開業いたしました。業務内容は建築設計(一級建築士)・土地及び建物の登記・調査・測量等です。おめでとうございます。御発展をお祈り申し上げます。

ススキタ建築設計・土地家屋調査士事務所

住所：〒010 秋田市土崎港東一丁目1-14

TEL 0188(45)9941

編集後記

厳しい暑さもようやく峠を越し、秋の気配が感じられるようになって来た今日この頃です。今年、土木工学科は創立二十周年を迎えることが出来ました。これも諸先生、諸先輩の御努力のおかげと感謝いたしております。これを一つの節目として、今後益々の御発展をお祈りいたします。土木工学科、同窓会が一丸となりまして、記念事業の企画をいたしております。同窓生諸氏の多数の参加をお願い申し上げます。

(柴田 記)

発行所 〒010 秋田市手形学園町1-1
秋田大学鉱山学部土木工学科同窓会
TEL 0188 (33) 5261
振替 秋田 4736

発行人 小林 富美雄
編集委員 柴田 恒夫 (5期)
印刷所 鶴田印刷株式会社
横手市清川町10-4
TEL 0182 (32) 2124

